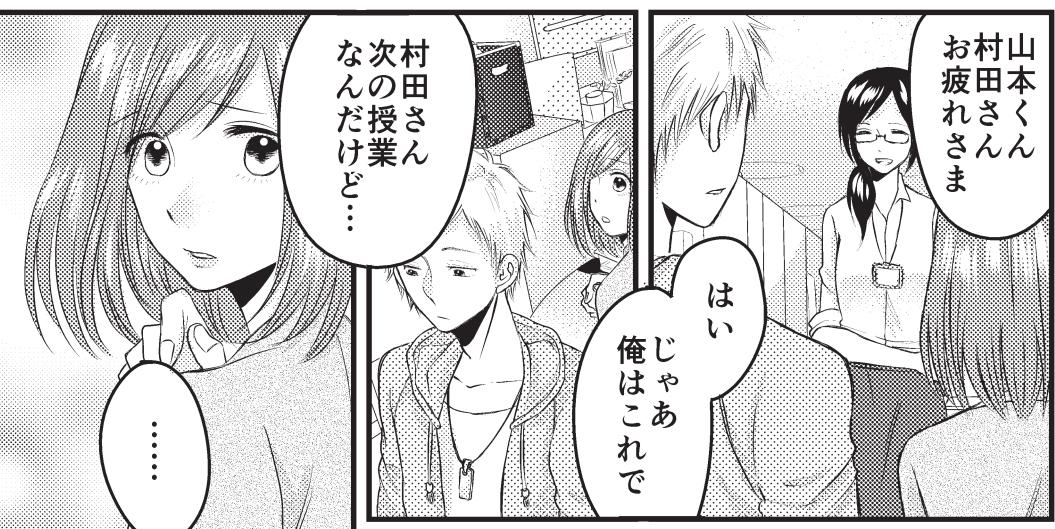
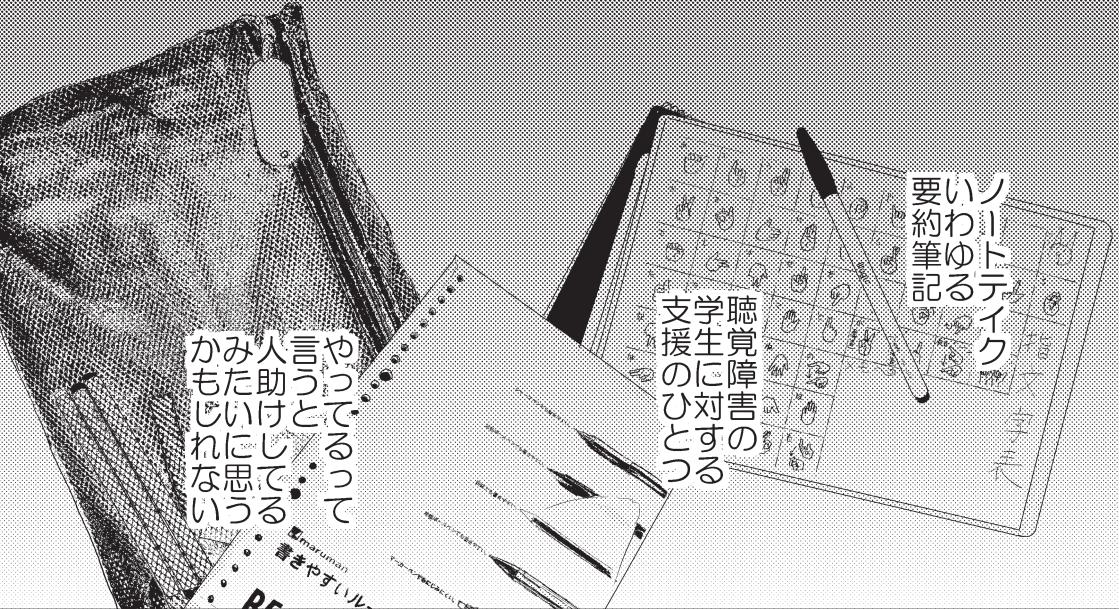


つながり

原案
河崎 賢一

作/画
今中 萌







俺のやつてる
一番の理由だ

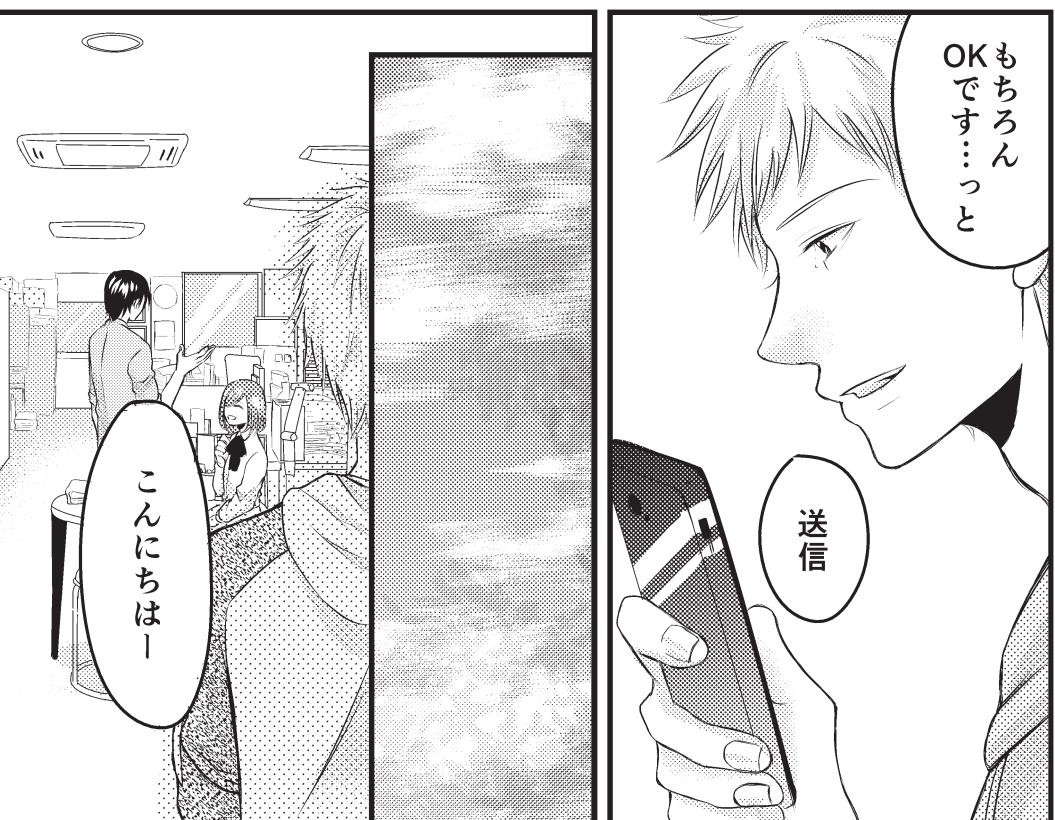
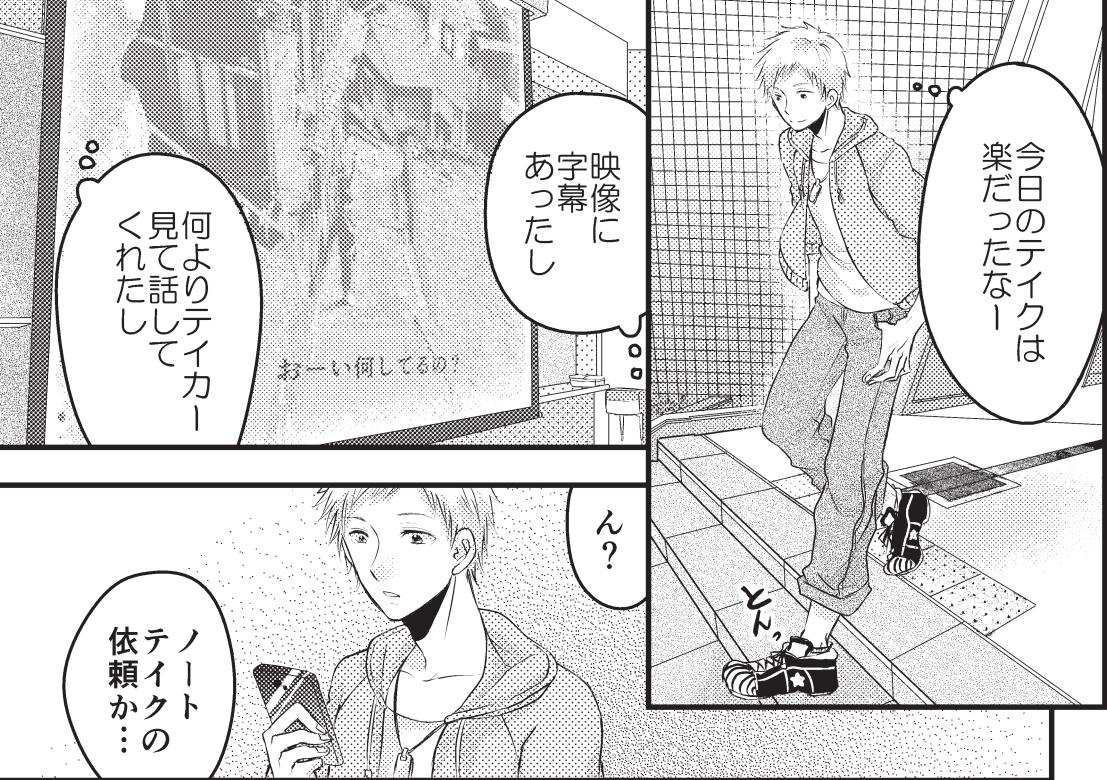
つながり

原案

河崎 賢一

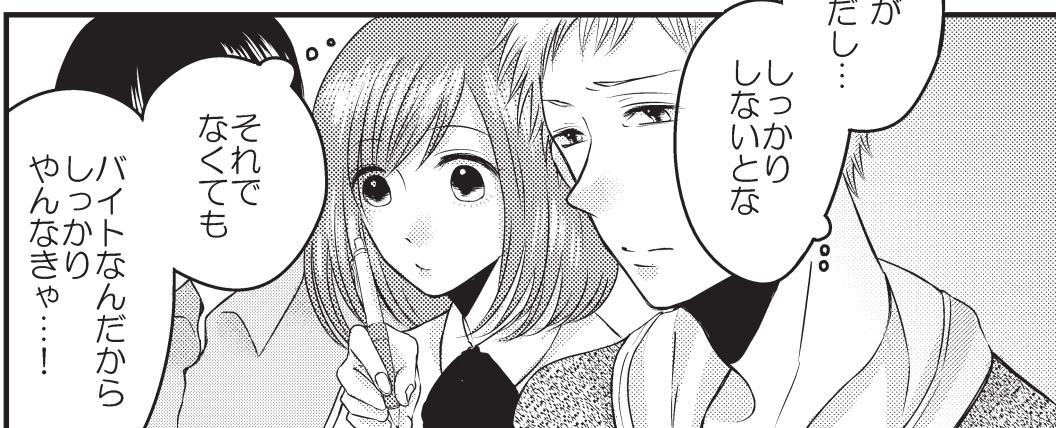
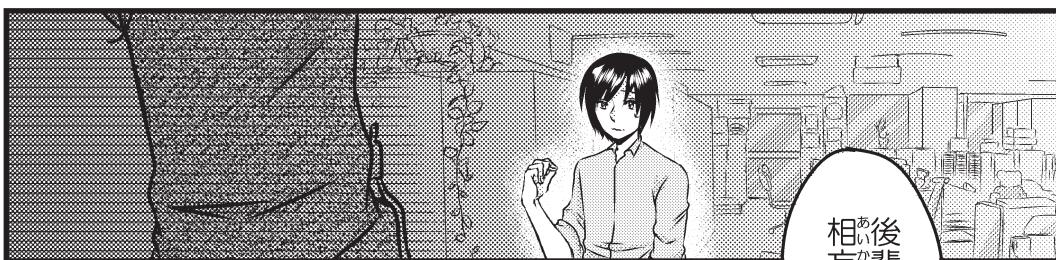
作/画

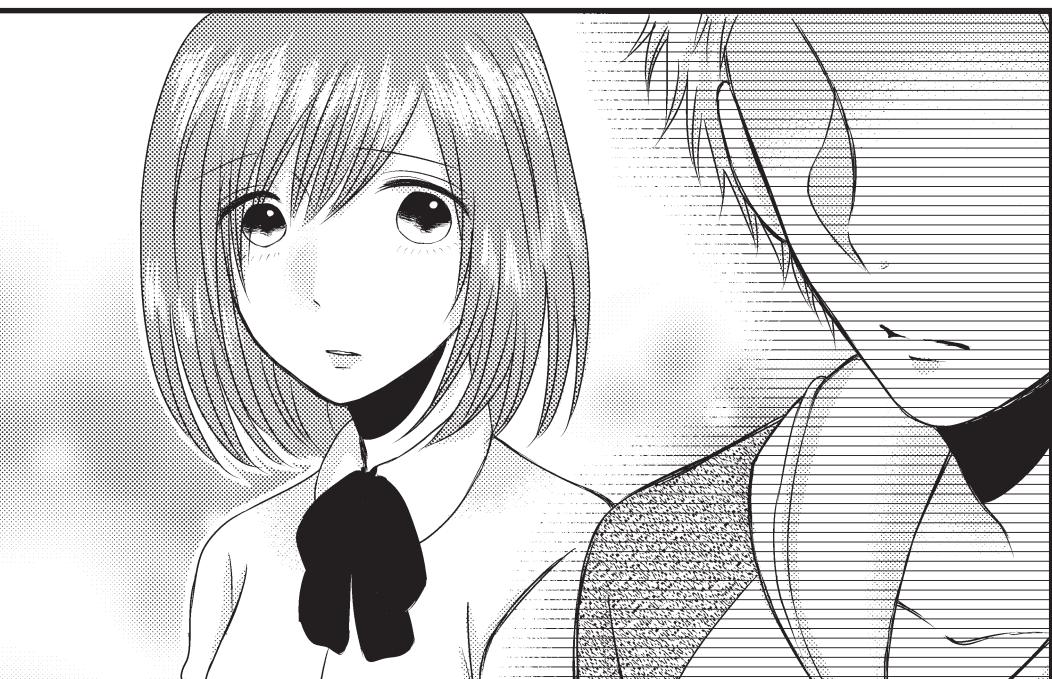
今中 萌





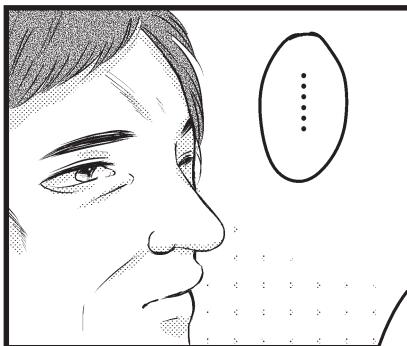
一年生だから
色々と教えて
あげてね先輩

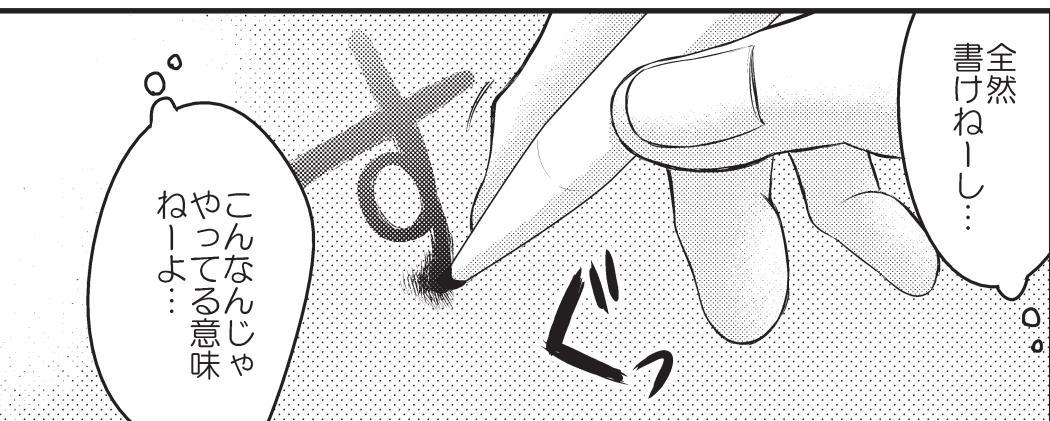
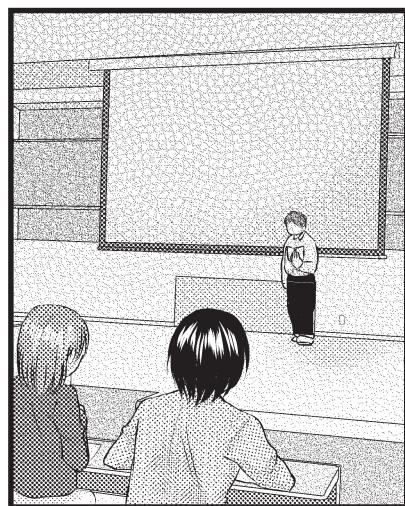




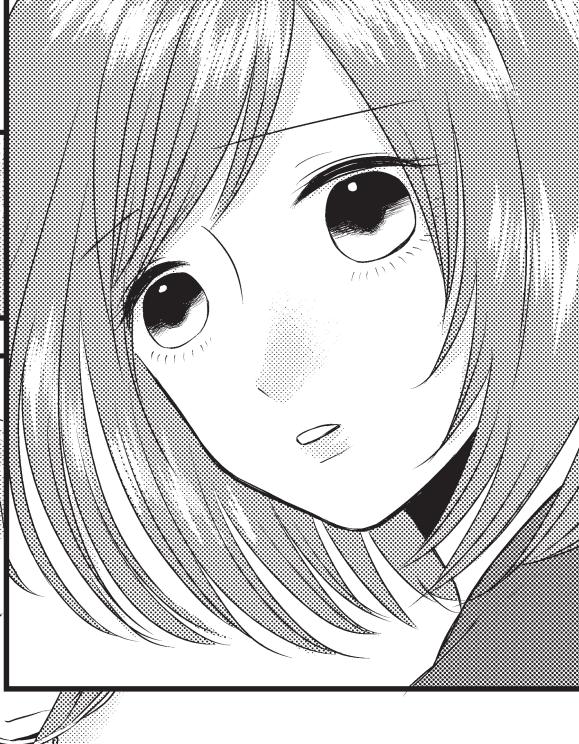
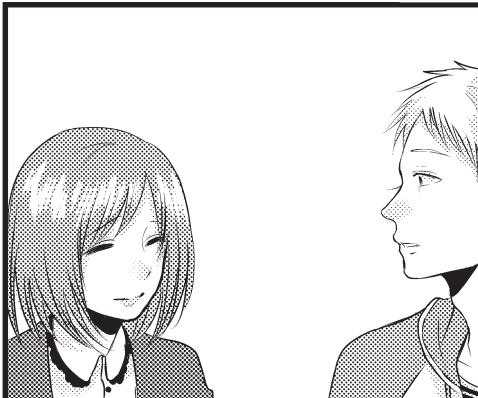




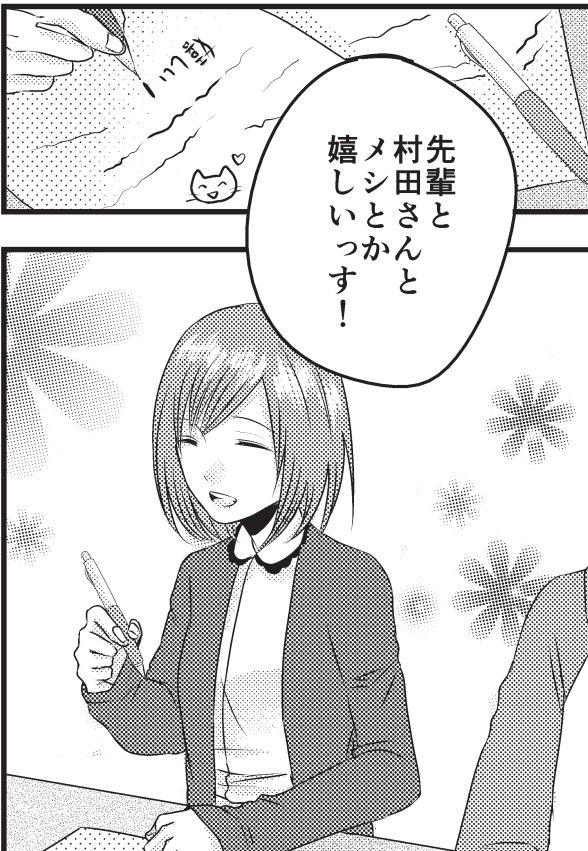


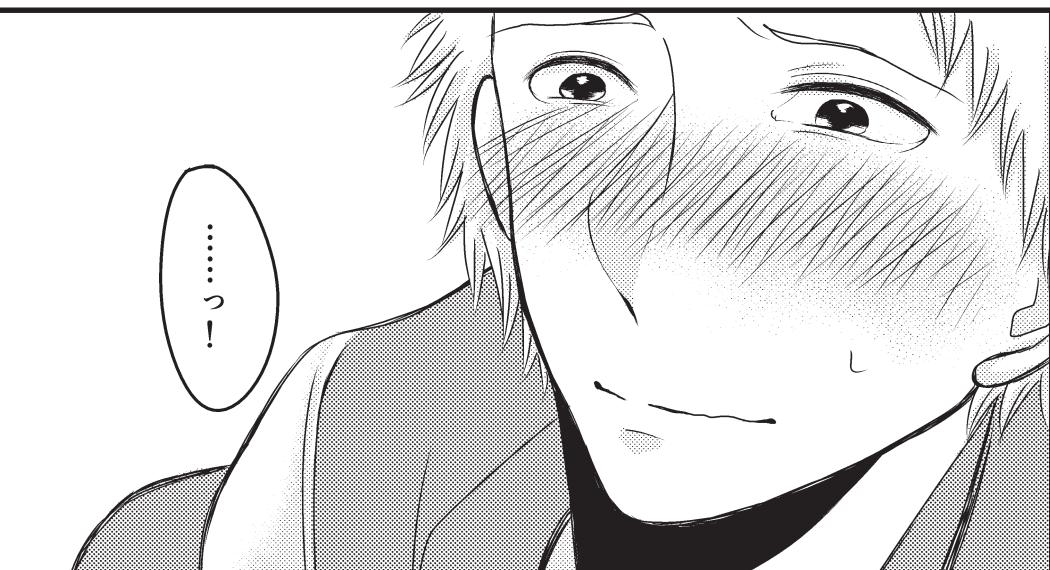
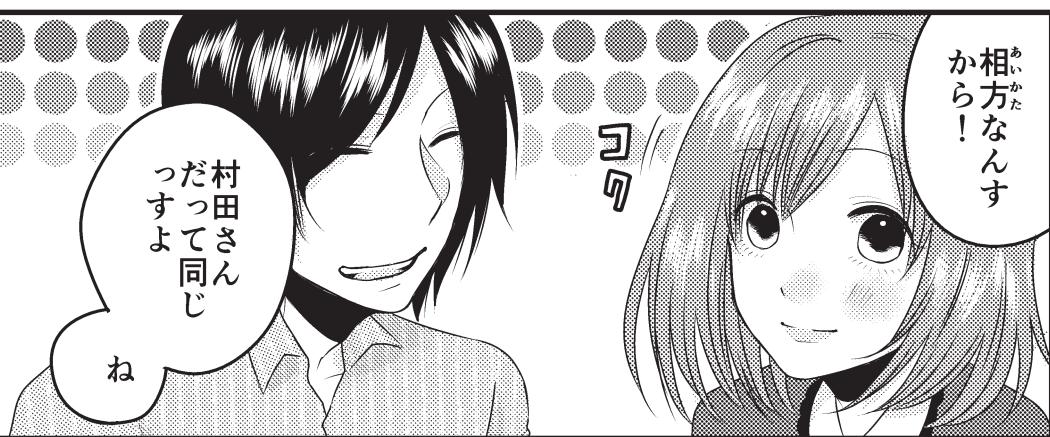


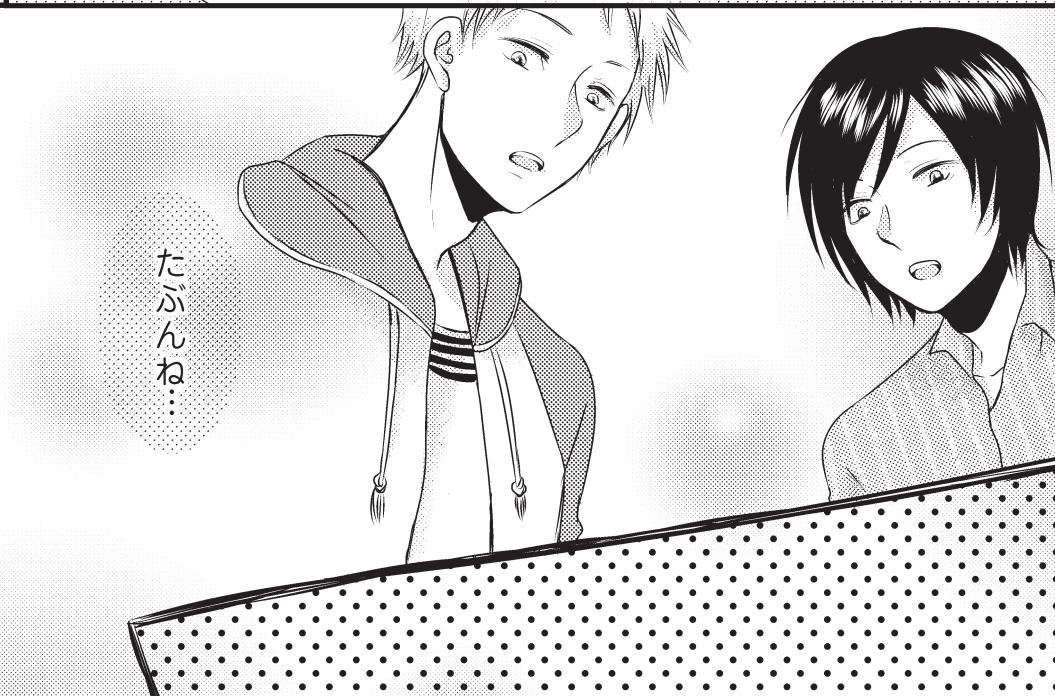
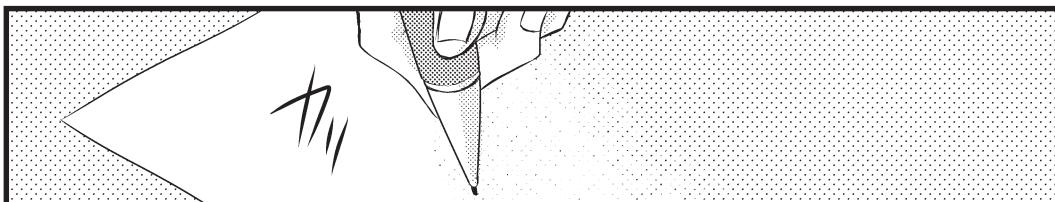
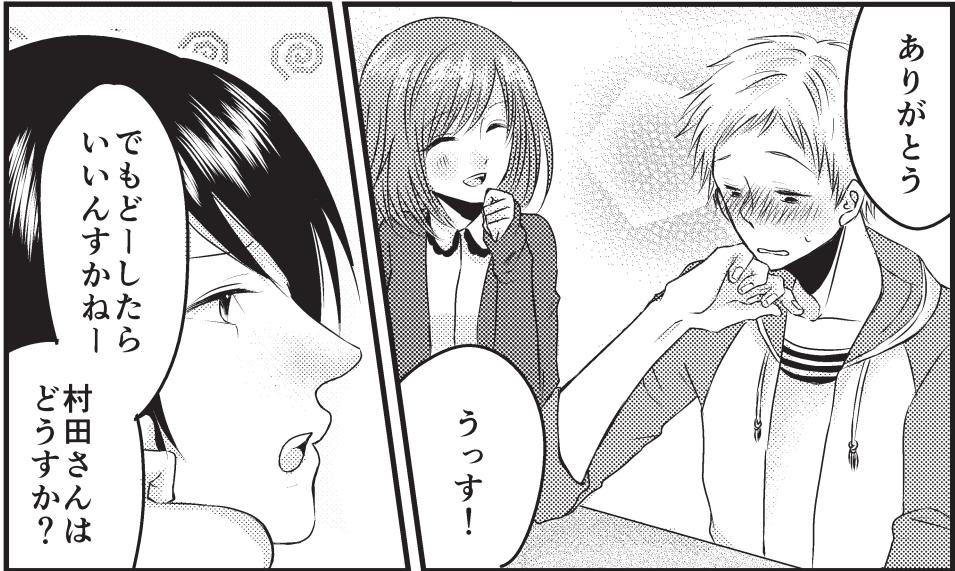
全然
書けねーし...





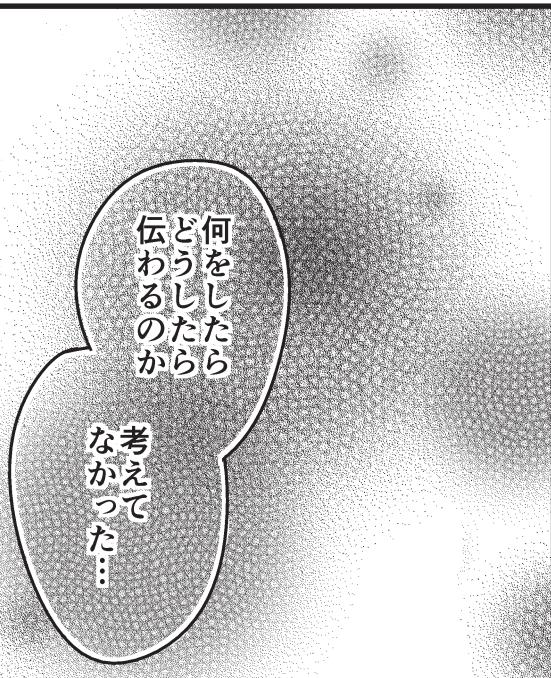








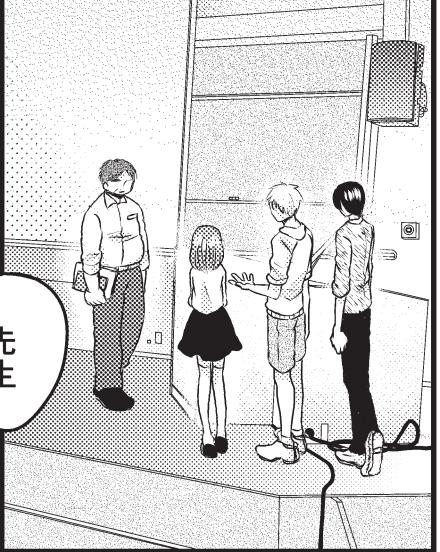
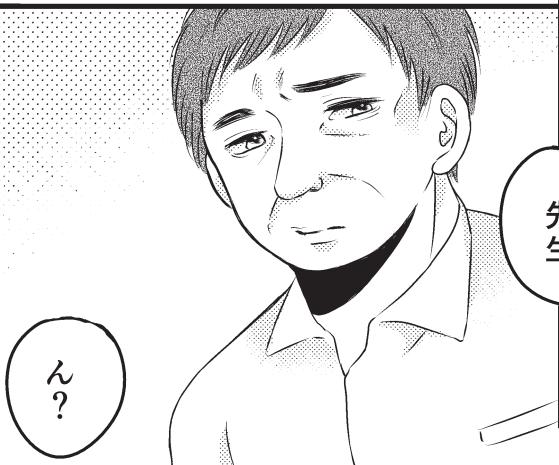
対私
しの
て障
害に



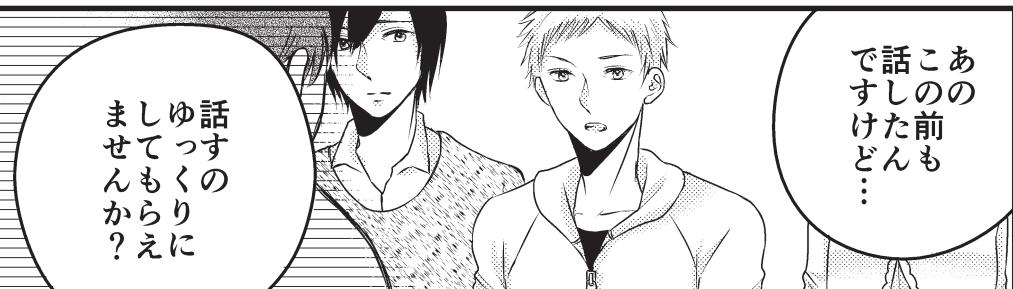
俺も
そ
うだ…

山本くんの
感じたことを
伝えよう
きっとわかってくれるはず。



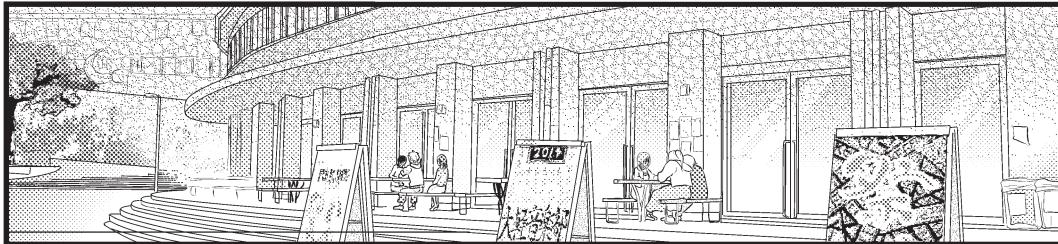


ん?





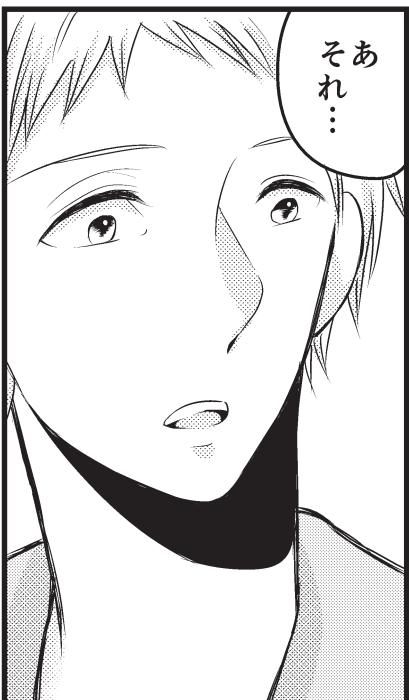
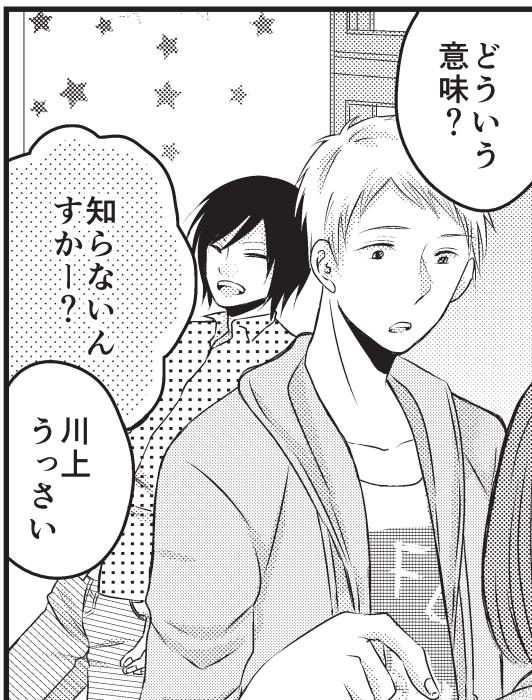
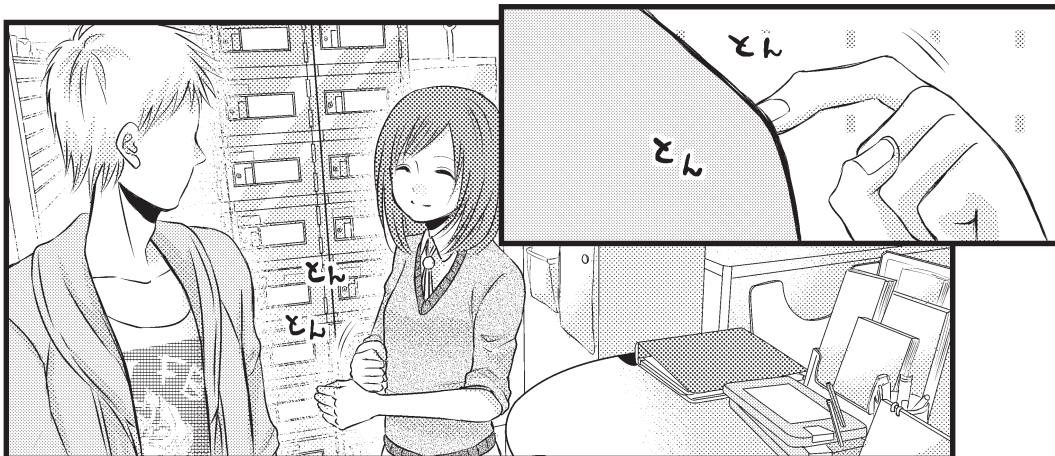


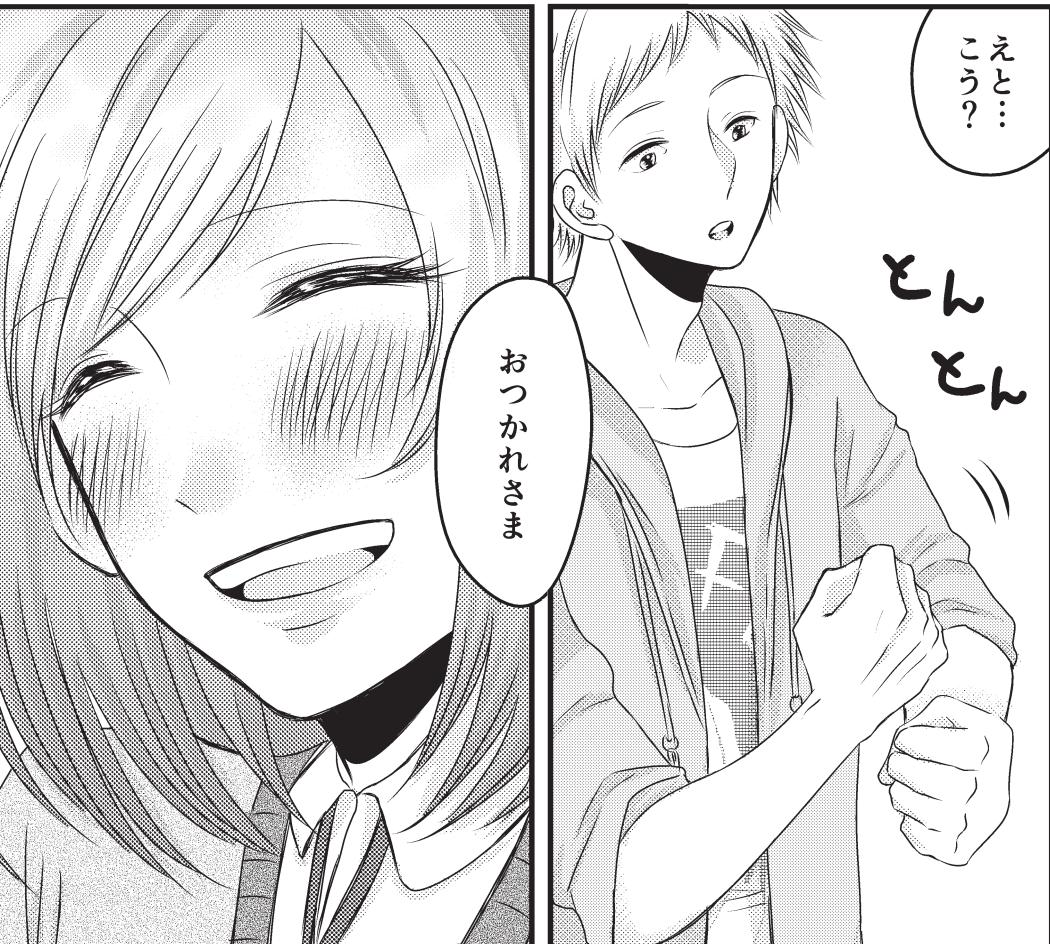
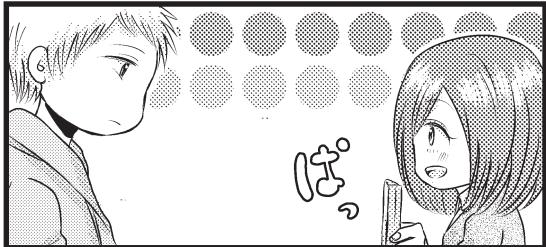
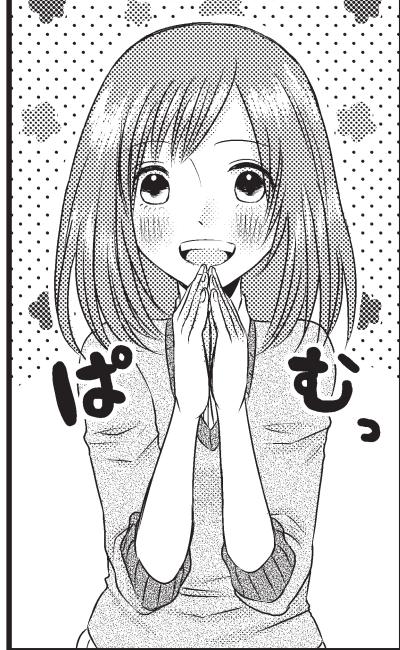
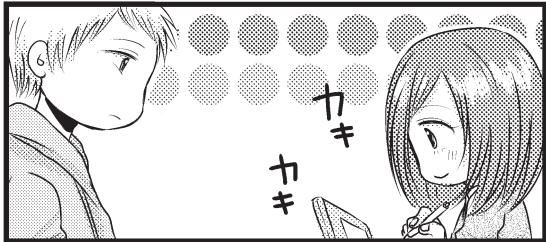


言われなくちゃ
氣づけんかった
ろうな：

ありがとう

はいっ！





ノ
いわ
約
筆記
ト
テ
イ
ク

やつて
るつて
言うと
かみ人
もた助
しいけ
れにし
な思て
いうる

バ
イ
ド
こ
れ
は





つながり



対面朗読

視覚障がい学生と向かい合わせに座り、教科書や関連資料等を朗読します。



代筆

授業コメント作成等で、視覚障がい学生が口述する内容を手書き文字にします。



ガイドヘルプ

白杖を使う学生が、学内をスムーズに移動できるようサポートします。



点訳

専用ソフトや専用プリンタを用いて、教科書・レジュメ等を点字翻訳します。



手話通訳

ゼミの討論や実技の合評等で、通訳を手配します（通訳は専門家に依頼します）。

ノートテイク・パソコンテイク・文字起こし・字幕制作は、一定の技術・条件を満たした後、学生アルバイトとして登録されます。
くわしくは、障がい学生支援室（本館2階）までおたずねください。

あなたのつながりは…?

京都精華大学は、1968年の開学当初から障がい学生を積極的に受け入れ、障がいのある・なしに関係なく学生が共に学び、育ち合っています。障がい学生支援室（2004年9月設置）は、おもに障害・疾患のある学生の授業支援や相談を行い、学内はもとより外部専門機関等と連携をはかり、支援の充実に努めています。

障がい学生をサポートする学生のスキル育成・研修にも積極的に取り組んでいます。本冊子で紹介した「ノートテイク」をはじめ、あなたにできる「つながり」を紹介しましょう。



ノートテイク

2人1組。講義などの音情報を、手書き文字で伝えます。利用学生（聴覚障がい学生）は中央に座ります。

*毎年春・秋にノートテイカー養成講座を開講します。



パソコンテイク

2～3人1組。講義などの音情報を、PC文字入力で伝えます。無線LANを介して利用学生（聴覚障がい学生）の端末に送信・表示します。

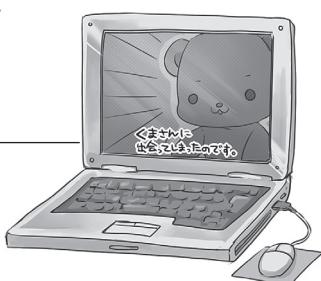
*毎年春・秋にパソコンテイカー養成講座を開講します。



文字起こし

映像音声を聞き取り、テキストを入力します。
入力した文字情報は、字幕制作に使用します。

*トレーニングは随時受付します。



字幕制作

専用ソフトを用いて、映像教材に字幕を挿入。
聴覚障がい学生の映像教材として使用します。

*毎年春・秋に字幕制作講座を開講します。

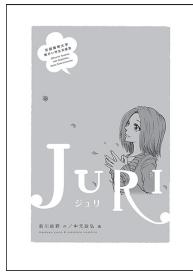
あとがき

本作の主人公・山本が「ちゃんと向き合ってなかつた」「何をしたらどうしたら伝わるのか 考えてなかつた」と告白するシーンがあります。「知らない」ことを理由に、つい「できない」理由を探してしまう……ノートテイクをバイトと割り切っていた山本も、先生、後輩や障がい学生と少しづつ関わるようになって、知ろう・向き合おうとする力を得ます。知ることは超えることの第一歩。勉強も、制作も、障害も、ノートテイクも、まずは素直に向き合うことからはじまるのかかもしれません。

この冊子をつくったのは、ノートテイカーと利用学生です。原案は、読書が大好きな聴覚障がい学生で、ノートテイクを利用していた河崎さん。作画と編集は、ノートテイカーとして活躍し、河崎さんのテイクも担った今中さんと木下さん。4年にわたって関わりを持ち、向き合ってきた学生たちが、「どうしたら伝わるのか」とともに考え抜いて、書きあげた一冊です。本作が、みなさんの新しい「つながり」をもたらすきっかけになることを願っています。

●バックナンバー

京都精華大学では、障がい学生や支援学生の協力を得て、障害やノートテイクをテーマにマンガ冊子を発行しています。バックナンバーご希望の方は、障がい学生支援室までご連絡ください。



『JURI (ジュリ)』
(2010年3月発行)



『スタートライン!』
(2012年3月発行)



『あたらしいキャンバス』
(2014年3月発行)

つながり

発 行 2015 年 3 月

原 案 河崎 賢一（人文学部総合人文学科現代社会と人間コース 4年）
作 / 画 今中 萌（マンガ学部マンガ学科ストーリーマンガコース 4年）
編 集 木下 奈美（マンガ学部マンガプロデュース学科マンガプロデュースコース4年）
作画協力 前田 文（マンガ学部マンガ学科ストーリーマンガコース 4年）
監 修 板橋しゅうほう（マンガ学部マンガ学科ストーリーマンガコース教員）

企 画 京都精華大学 学生課 障がい学生支援室
〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137 電話 075-702-5268
<http://www.kyoto-seika.ac.jp>



企画 京都精華大学 障がい学生支援室

office for students with disabilities
kyoto seika university